

File Number: EFLP001-B-E

YDFLP-30-M6-S + 型 ファイバーレーザ 取扱説明書

Version : B Date: 2016.4



SHENZHEN JPT OPTO-ELECTRONICS CO., LTD


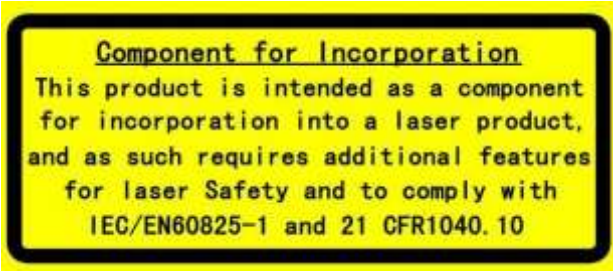
Shenzhen JPT Opto-Electronics Co. Ltd.

安全性

YDFLP ファイバーレーザーを操作する前に、このマニュアルを注意深くお読みください。これは、安全性、製品の操作、およびその他の必要な参照情報に関する基本情報を提供しています。安全性および性能を最大限に引き出すために、以下の安全性の通達に厳密に従ってください。

- +DC24V の電源が正しく接続されていることを確認して下さい。不適切な接続は、製品を破損させる可能性があります。
- JPT 社の許可なく、本製品のカバーを開けないでください。許可なく開けた場合は、安全問題発生の原因となったり、保証が無効になる場合があります。
- 製品の動作中は、いかなる場合も図-1に示すようなレーザーゴーグルを着用してください。このレーザーモジュールは、定格平均出力10W 以上、定格ピーク出力7kW 以上の目に見えないレーザー光を放射するクラス4レーザーに該当します。直接または散乱したレーザー光が目に入ると、眼に永久的な損傷を引き起こしたり、人体の組織がやけどしたり、火災の原因になることがあります。
- 注意:0%の出力設定でも、平均パワーは依然として約90ミリワット出力されます。

表-1 安全性ラベル

シンボル	内容
	レーザー放射に関するレーザー警告ラベルは(出力ファイバーの近くに貼付)
	組み込み部品用ラベル (本製品の上部カバーに貼付)



 <p>Wavelength 1040-1200nm Pulsed Output: Max Pulse Energy <2.0mj Repetition Frequency 20-500kHz Pulse duration >10ns Max Average Power <50W CW Output Power <50W IEC/EN 60825-1:2001</p>	<p>安全性情報(本製品の 上部カバーに付属)</p>
 <p>CAUTION-CLASS 4 INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN AVOID EYE OR SKIN EXPOSURE TO DIRECT OR SCATTERED RADIATION</p>	<p>安全警告(出力ファイ バアーイソレーター & コリメーターに貼付)</p>



図-1 レーザ安全ゴーグル

もくじ

安全性	1
もくじ.....	3
1. 製品ツアー	4
1.1 製品概要.....	4
1.2 パッキングリスト	5
1.3 動作条件および安全に関する指示	5
1.4 FLP 製品シリーズの命名規則	6
1.5 技術的仕様.....	7
表4 YDFLP-M6+ファイバーレーザーの仕様.....	7
2. インストール	11
2.1 寸法	11
3. 制御およびモニタリング用インターフェース.....	13
3.1 寸法	13
3.2 インストールの手順	15
4. 操作手順.....	18
4.1 製品の準備検査	18
4.2 操作手順.....	18
4.3 レーザ操作時の注意事項	18
5. メンテナンス、顧客サービスおよび修理.....	19
5.1 標準保証.....	19
5.2 保証の制限	19
5.3 サービスおよびメンテナンス.....	19

1. 製品ツアー

1.1 製品の概要

JPT 社 YDFLP パルスファイバーレーザは、半導体レーザダイオードがマスター発振器として働き、ファイバー増幅器が出力パワーを高めるように働く MOPA (マスター発振器パワーアンプ) 構造を採用しています。この MOPA パルスファイバーレーザは、パルス幅とパルス繰り返し周波数を独立して調整することができます。ファイバーレーザのパルス幅を変化させても、この MOPA ファイバーレーザのピークパワーは、異なるパルス繰り返し周波数でも同じレベルに維持することができます。この機能により、本製品は様々な産業用アプリケーションで理想的なレーザ光源になります。

MOPA ファイバーレーザは、従来の固体レーザより高いスロープ効率でそれらを埋め込んだファイバーカップラーを介してポンピングされます。チャンバー内で発生する熱を効果的に除去するために3つの冷却ファンを使用しているため、ファイバーレーザは、よりコンパクトで持ち運びが簡単にできるようになっています。また、すべてのファイバーベースのレーザ共振器は、高いビーム品質のレーザ出力が得られます。

JPT 社の MOPA ファイバーレーザは、標準的な DB25 インターフェースを採用し、互換性が柔軟になるように、それは 24V/8A 直流電源で電力が供給されます。典型的な JPT 社の MOPA ファイバーレーザの写真を図2に示します。



図-2 JPT 社製 MOPA ファイバーレーザ

1.2 パッキングリスト

表-2 YDFLP のパッキングリスト

項 目	数 量	備 考
ファイバーレーザ	1	
24V 電源ケーブル	1	
USB テータライン (GUI)	1	
アイソレーター防塵キャップ	1	
検査報告書	1	
仕様リスト	1	
使用上の注意事項	1	

1.3 動作条件および安全に関する指示

本製品を良好なパフォーマンスと信頼性を維持するために、常に以下のような状態でレーザを操作してください。

- 1) このファイバーレーザは、24V/8A の DC 電源で動作させなければなりません。誤接続するとファイバーレーザが動作しなくなることがあります。
- 2) ファイバーレーザチャンバの前後に10センチ幅の空間が存在し、空気の流れの方向は、ファイバーレーザモジュールとシステム全体の残りの部分と同じでなければなりません。換気距離が短かったり、空気の流れの方向を間違えた場合は、ファイバーレーザの故障の原因になることがあります。
- 3) 動作温度範囲は0～40℃です。もし、40℃以上の温度になると、ファイバーレーザは内部警報が発せられます。これは、長時間動作の信頼性を確保するための保護機能です。
- 4) 特に、レーザモジュールのファイバーピグテールと出力アイソレーターは、動作中はきれいな状態に維持してください。稼働していないときは、アイソレーター出口のカバーを忘れないでください。
- 5) このファイバーレーザのインストールまたはアンインストールする前に製品の電源をオフにしてください。
- 6) このファイバーレーザを操作するときは、ファイバーレーザヘッドで決して見ないでください。また、レーザゴーグルを必ず着用してください。
- 7) YDFLP-M6+は、1ns、2ns、4ns、6ns、9ns、13ns、20ns、30ns、45ns、55ns、60ns、80ns、100ns、150ns、200ns および250ns の16種類のパルス幅を選択することができます。これ以外のパルス幅が必要な場合は、カスタマイズしますので、当社に連絡してください。

1.4 YDFLP 製品シリーズの命名規則

表-3 パルスファイバーレーザー用命名規則

YDFLP - **XX** - **XX** - **X** - **X**

1 2 3 4 5

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 製品名 2. 平均出力 3. 製品シリーズ 4. 光ファイバーのタイプ 5. 製品のタイプ |
|--|

1. 製品名	YDFLP (Ytterbium Doped Fiber Laser Pulse)		
2. 平均出力(オプション)	20W		
	30W		
	60W / 70W / 100W / 120W / 150W		
3. 製品シリーズ (オプション)	パルス幅可変	M シリーズ	M1(+)
		LM1 シリーズ	大きなパルス幅
	パルス幅固定	LP1/Q	
4. 光ファイバーのタイプ	S		シングルモード
	L		低次モード
	H		高次モード
5. 製品のタイプ	無し: 標準製品	R: 赤色パイロットレーザー内蔵	

例:

YDFLP-20-M1+-S: 平均出力@20W のシングルモード光ファイバーを用いた M1+の標準製品を意味します。

YDFLP-30-M1+-L-R: 平均出力@30W の低次モードタイプの光ファイバーを用いた M1+のカスタム製品を意味します。赤色ガイドレーザーを内蔵しています。

1.5 技術的仕様

表-4 YDFLP- M6+ シリーズ パルスファイバーレーザーの仕様

項目	単位	仕様
レーザーのタイプ		MOFA
型名		YDFLP- -M6 -S
平均出力	W	
M ²		< 1.3
出力ファイバー長	m	2m (カスタム可能)
パルスエネルギー	mJ	0.5
フルパワー周波数範囲	kHz	-2,000
可変周波数範囲	kHz	1- ,000
パルス幅	ns	-250
出力安定性	%	< 5
冷却方法		空冷
電源電圧	V	24
電源電流	A	<
消費電源電流	A	> .
消費電力(20℃)	W	<
中心波長	nm	1064
FWHM:半値全幅(nm) @3dB	nm	< 5
偏光方向		ランダム
反射防止保護		YES
出力ビーム径(mm)	mm	7
出力範囲	%	0~100
動作温度範囲	℃	0~40
保管温度範囲	℃	-10~60
寸法	cm	315 x 220 x 99
重量	kg	正味重量:8.5 / 総重量:

表-5 YDFLP-30-M6+-Sの 限界周波数

YDFLP-30-M6+-S	
パルス幅 (ns)	限界周波数 (kHz)
1	N/A
2	1300
4	750
6	480
9	375
13	255
20	173
30	135
45	113
55	98
60	98
80	90
100	83
150	68
200	68
250	60

※カットオフ周波数の値より上は、ファイバーレーザーのフルパワー出力域で、反対に、カットオフ周波数値より下では、カットオフパワー出力範囲です。すなわち、ファイバーレーザーは、カットオフ周波数値より以下では、機械を保護するために、出力パワーを低減することを意味します。以下は、周波数と出力の間の変化を示したグラフです。

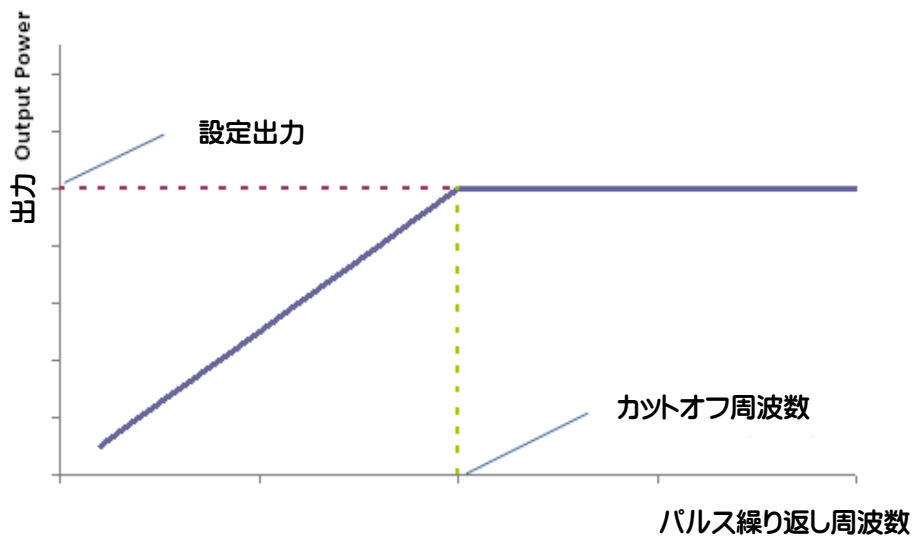


図-3 カットオフ周波数と出力の関係図

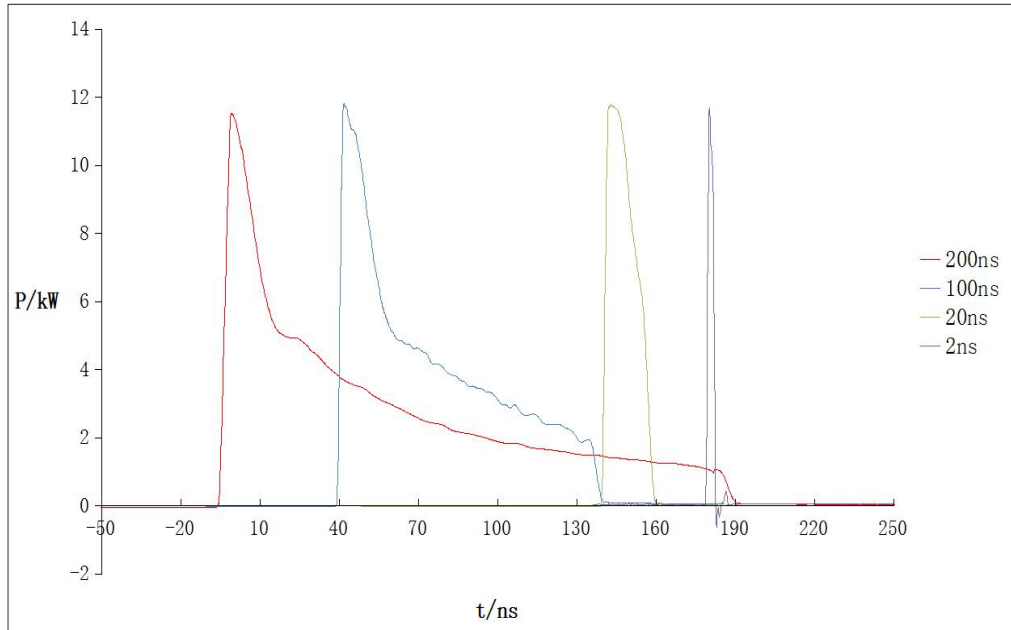


図-4 M6+-S の波形

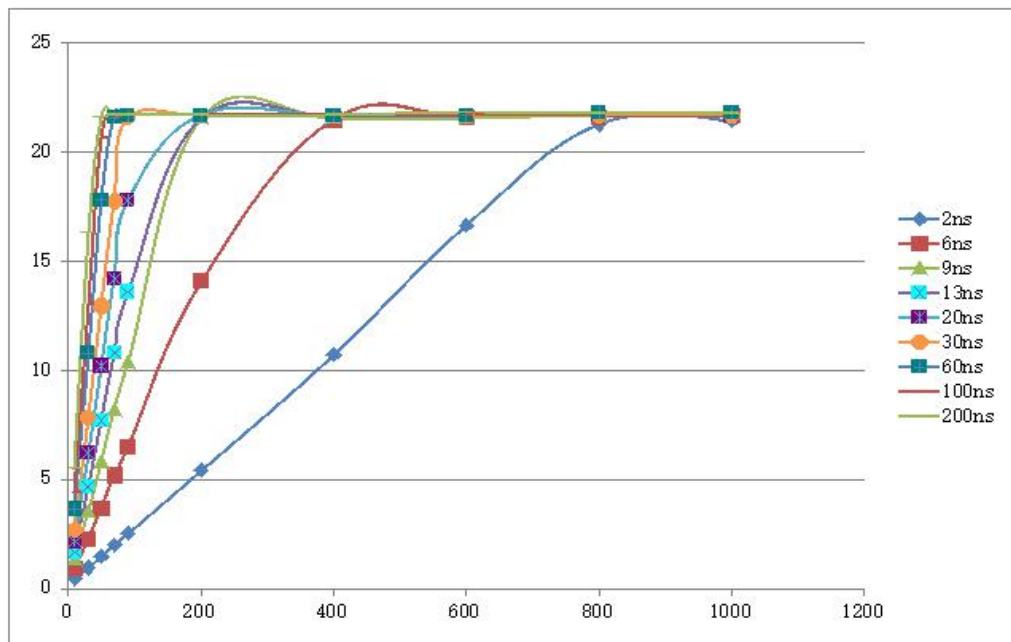


図-5 異なるパルス幅および周波数における M6+ の最大負荷時の実際の出力曲線

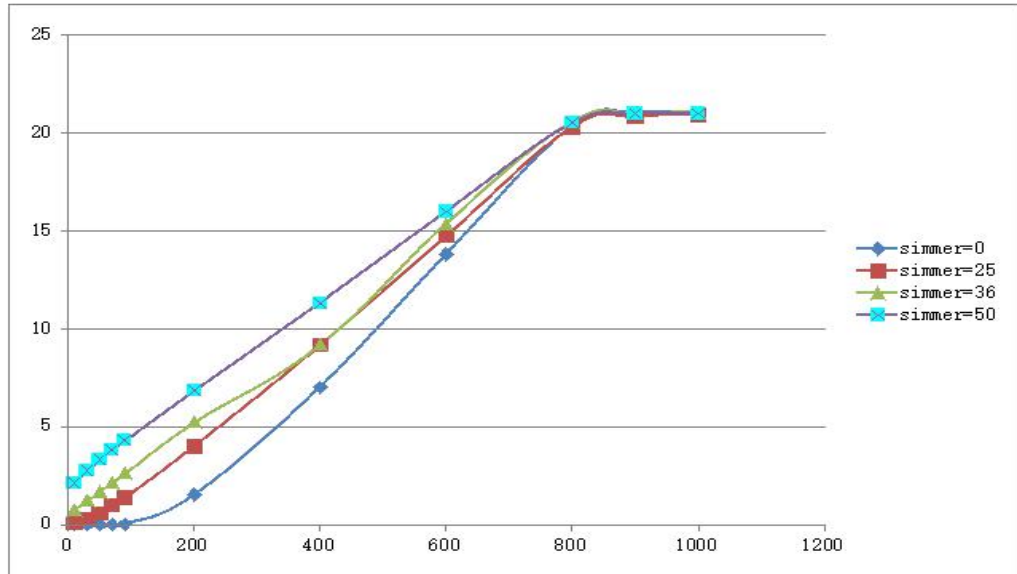


図-6 異なるシマー値および周波数における M6@2ns の実際の出力曲線

※M6は、お客様が必要とする効果を達成するために、クラスIIシマー値を調整するためにGUIを使用することができます。シマー値の変更は、同じパラメーター下で出力に影響を与えます。図6は、シマー値の影響を示しています。

2. インストール

2.1 寸法

1. 本体の寸法

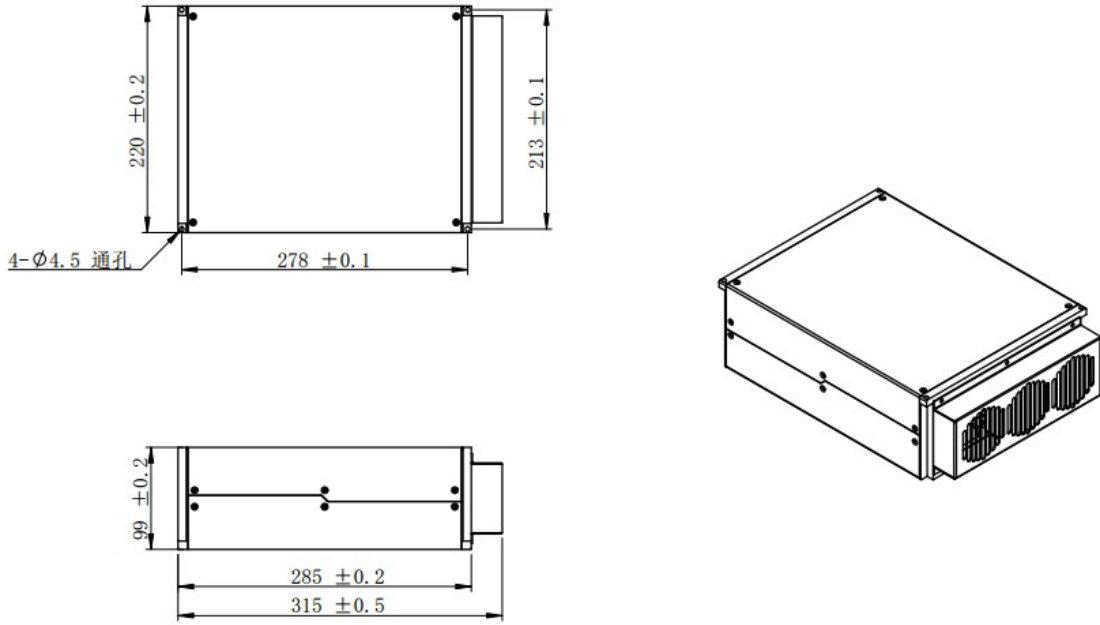
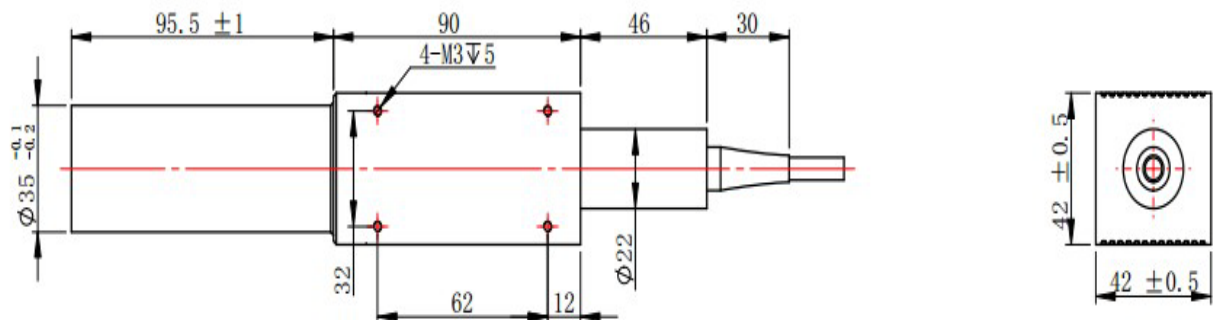


図-7 ファイバーレーザーモジュールの機械的寸法 (単位:mm)

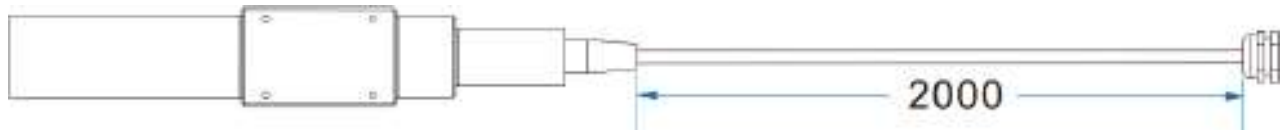
2. 出力アイソレーターの機械的寸法



単位: mm

図-8 出力アイソレーターの機械的寸法 (単位:mm)

3. 出力ファイバーケーブルの機械的寸法



2.2 インスタレーションの手順

- 1) 取り付けパネルの上にレーザーモジュールを固定します。十分な空気の流れを確保できるように、レーザーモジュールの周りには必ず十分な空間を確保して下さい。
- 2) カラーコードに従って、24V の直流電源に電源ケーブルを接続します。すなわち、赤:DC プラス、黒:DC マイナス、オリーブ色:GND。

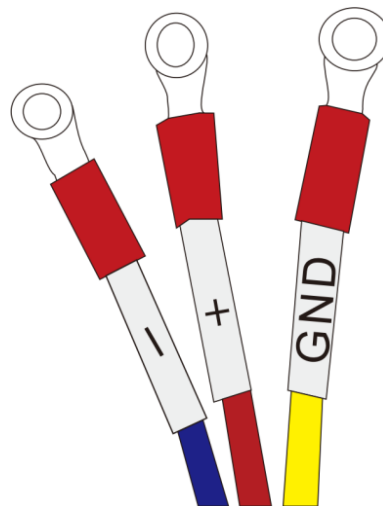


図-9 電源ケーブルのカラーコード

- 3) 外部コントローラーの制御インターフェースは、レーザーに一致させられることを確認し、レーザーに制御ケーブルを接続し、それを固定する。

3. 制御およびモニタリング用インターフェース

3.1 制御インターフェース

パワーモジュールの背後にある DB25は、レーザシステム (例えば、マーキング装置のような) に、制御システムを接続するためのインターフェースです。動作させる前に、インターフェースがしっかりと接続されていることを確認してください。

PIN は、図10および表9に示すように定義されています。

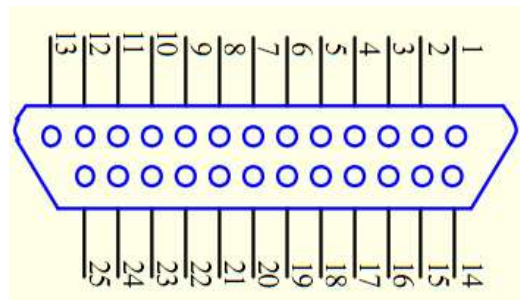


図-10 DB25インターフェース

表-6 DB25インターフェースの定義

DB25 PIN #	内 容
1-8	IP0-IP7 パワー制御
10-15	GND 説明: PIN10-15は、ファイバーレーザ内部で接続しているが、制御カードと他のピンの GND とを接続する必要がある。
16, 21	警告信号 説明: 16ローレベル、21ハイレベル: ノーマル 16ローレベル、21ローレベル: 温度アラーム
19	レーザ開始信号 (PA) は、ハイレベルがオープンであり、ローレベルはオフになっていることを示す。 24VDC 主電源を追加する前のハイレベルの PIN19は、ファイバーレーザを認識できず (PA)、オン状態であることはできない。

20	周波数変調 (TTL)
22	A. コントロールパルス幅は ENABLE B. ハイレベル: レッドビームがオンになる; ローレベル: レッドビームがオフになる
18	ハイレベルはオープンで、ローレベルはオフ。 レーザをオン後、MO の立ち上がりとともに、1秒でレーザが発射。
9,17,23,24,25	接続の必要なし

3.1.1 インターフェースの設定

PIN1～8の TTL 信号の組み合わせを介した出力である励起レーザダイオードの電流を設定してください。エンコーディングは0～100%のパワー出力に相当する0～255の範囲内に設定することができます(実際の光出力は、これらの設定と線形関係ではないかもしれません)。表7を参照してください。

表-7 MOPA ファイバーレーザの電流設定

	設定1	設定2	設定3	設定4
PIN 1	0	0	0	0
PIN 2	0	0	0	0
PIN 3	0	0	0	0
PIN 4	0	0	0	0
PIN 5	0	0	0	1
PIN 6	0	0	1	1
PIN 7	0	1	1	1
PIN 8	1	1	1	1
電流	~50 %	~75 %	~87.5 %	~93.75 %

以下は、DB25の制御時系列図です。

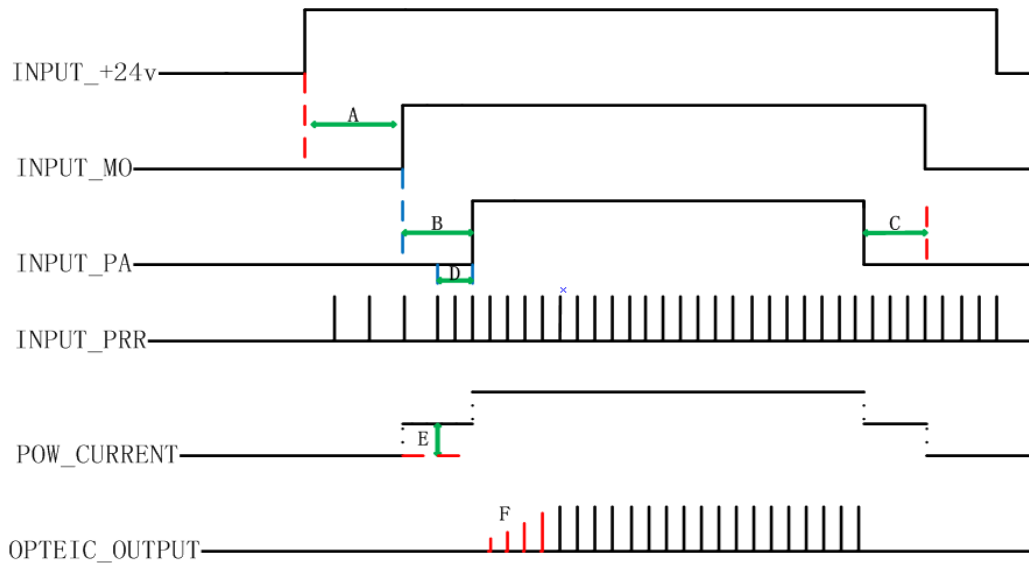


図-11 DB25制御時系列ダイアグラム

- A: システムの初期化時間: レーザは、MO の立ち上がりとともに、1秒でレーザをオンにした後に発射されます。
- B: 励起充電時間: 時間範囲 (8ms~35ms)、8ms をお勧めします。
- C: 範囲: 1ms~8ms、4ms をお勧めします。
- D: 時間スイッチング周波数: 範囲: 4~8ms、8ms をお勧めします。
- E: クラス II SIMMER: GUI (レーザのサポートソフトウェア) を介して調節することができるファーストパルスの高さを制御します。
- F: ファーストパルスの高さ: これは、GUI を介して調節することができます (レーザのサポートソフトウェア)。

備考: 24V の電圧を供給後は、動作するまで1分間待機する必要があります。

①ファイバーレーザ制御システムのセルフロック: ファイバーレーザが、異常なテスト信号を受信した場合 (例えば、長時間の制御カードに接続されない、高温、高周波信号、低い724V 電源)、ファイバーレーザは、命令の受信を停止します。マシンを復旧したい場合は、再度電源はファイバーレーザの電源を投入してください。

3.2 パルス幅の制御

3.2.1 パルス幅制御機能 PIN:

DB25 Pin2, Pin3, Pin22: 基本制御に使用されるだけでなく、パルス幅制御にも使用されます。

表-8 ファイバーレーザパルス幅制御 PIN および信号

Pin No.	項目	説明
2	シリアル入力	ファイバーレーザシリアル入力、設定データビットは、シリアルクロックの立ち上がりエッジに同期
3	シリアルクロック	シリアルデジタルクロック、8kHz≤クロック 周波数≤10kHz、10kHz で使用することを推奨
22	有効化	パルス幅制御機能： ハイ: 有効化、パルス幅を制御するために Pin2 と Pin3 ローまたは接続しない;無効化

3.2.2 パルス幅制御指令構造

- 1) 制御システムは、Pin3を介してクロック信号を送信し、Pin2に通ってファイバーレーザにシリアル入力命令を送ります。指示書はバイナリシステムで送信し、第1の最上位ビットを送信します。
- 2) ファイバーレーザ指令構成は、次のとおりです：

0xA5	命令コード
------	-------
- 3) 0xA5 (A5H) は、活性化されたパルス幅制御インターフェースのデータ送信活性化バイトで、0xA5およびすべてのデータバイトは、Pin2シリアル入力に送信されます。
 - ・データ長は4バイトです。
 - ・命令コードの最初のバイトは0x01です。
 - ・ファイバーレーザは、任意のコネクタで「有効化 (Enable)」に変わる前に、少なくとも10 μs 前にハイレベルの状態になり、すべての変更が終了した後、少なくとも10 μs に低レベルの状態になります。
 - ・すべての命令は、0xA5のバイトで開始するように設計されています。
- 4) 拡張設定を使用する前に、ローPin19を設定してください。

3.2.3 パルス幅制御命令コード

表-9 パルス幅制御命令コード

命令	命令コード	説明
パルス幅設定	0x01	パルス幅設定 (ns)

ファイバーレーザのパルス幅の初期化を完了するために、50ns が費やされます。

備考: 命令コードは、3*0x01の命令を送信し、ファイバーレーザは、その受信を拒否します。

3.2.4 パルス幅制御クロック図

以下は、パルス幅200nsのサンプルシリアルクロック図で、バイト順序が0x01の命令を使用する場合は以下のとおりです：

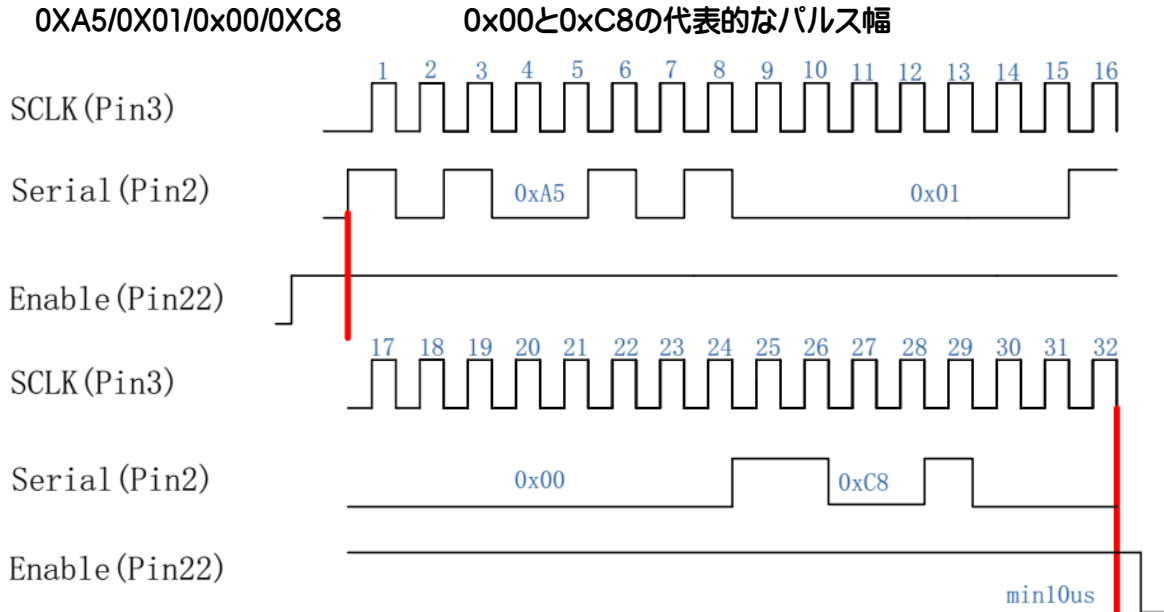


図-12 パルス制御クロック図

この命令のパラメーターは、パルス幅のバイナリ値です。ユーザーは、パルス幅のどのような値でもコンパイルすることができますが、レーザは、指定されたパルス幅の信号を受信することができません(特定パルス幅については、ユーザーマニュアルを参照してください)。パルス幅の値が、指定されたパルス幅の範囲外である場合、レーザは、前回設定されたデフォルトのパルス幅を選択します。

4. 操作手順

4.1 製品の準備検査

- 1) レーザケーシングと、予期しない条件のためのファイバーケーブルを確認してください。
- 2) レーザシステムとファイバーレーザーモジュール間の接続を確認し、接続ケーブルを締めます。

4.2 操作手順

1) システムの電源をオンにする

マーキング装置の電源をオンにすると同時に、またはオンにした後にファイバーレーザーの電源をオンにします。次のステップに移る前に約1分間待ちます。レーザーの電源をオンにしてから5秒以内にレーザー制御カードの電源を入れない場合は、ファイバーレーザーが自動的にロックされることに注意してください。そうしなければ、正常に機能させるために、ファイバーレーザーを再起動してください。

2) レーザマーキングのための手順

ファイバーレーザーをテストするために、まず、パワーを0%に設定して、レーザーマーキングのソフトウェアを使用して単純な図形を描画し、マーキング装置を駆動し、周波数が二倍に（波長が半分）に）変換されるため、近赤外光が目で見える緑色になり発光するパテリやポリセリンのかけらでレーザーの発振を確認します。徐々にレーザーパワーを増大させ、マーキング加工の設定を変更します。通常の場合下では、パテリやポリセリンのかけらで観察したレーザー出力は、ますます強くするか、または装置を電源オフにしてそれをチェックします。

4.3 レーザ動作時の注意事項

- 1) レーザ安全ゴーグルを着用してください。
- 2) ファイバーレーザーをオフにする前にレーザー加工を停止してください。

製品の保証とサービスの上記条件は、当該ユーザーにのみ限られます。正式なサービスおよび保証範囲は、契約で規定されます。

5. メンテナンス、顧客サービスおよび修理

5.1 標準保証

注文書や仕様書のもとで製造されたすべての製品が出荷された場合、JPT 社は、材料や技術に問題がある製品について保証し、仕様の範囲内で通常使用された製品を保障します。

JPT 社は、保証期間中、欠陥が証明され返却された製品について、選択的に修理または交換する権利を有します。製品が保証期間外、または修理が保証対象外の場合、製品の修理費用はお客様の負担になります。JPT 社は、通常の使用において問題が発生した製品の支払いを請求する権利を留保します。

5.2 保証の制限

上記の保証は、お客様の不適當または不十分な保守やお客様によるキャリブレーション、お客様または第三者が供給したソフトウェア、インターフェースまたは消耗品、不正な改造、製品の仕様外の不適切な使用、乱用、過失、事故、輸送中の紛失または損傷、または不正なメンテナンスや修理に起因する欠陥には適用されません。

お客様は、動作中、マニュアルを理解し、厳密にそれに従ってください。不適切な操作に起因する問題は保証の対象ではありません。例えば、光ファイバーのような JPT 社で生産していない部品やアクセサリは、保証範囲外です。

保証期間内に不良品を発見した場合、お客様は30日以内に申し出る必要があります。この保証に基づくすべての申し出は顧客自身によってなされなければならず、第三者からの申し出は受け付けられません。

5.3 サービスおよびメンテナンス

注意: 内部には、オペレータが修理できる部品はありません。JPT 社の有資格技術者にお問い合わせください。この保証の下での修理または交換のためのすべての要求は、欠陥が発見されたら、JPT

社またはお住まいの地域での代理店に向けて可能な限り早く行われなければなりません。当社が返送を許可したすべての項目は、適切な容器に入れて返送しなければなりません。

装置の受取時に発見した損傷は、運送業者に対して適切なクレームを行うために文書化しなければなりません。

上記の製品保証とサービス条件は、ユーザーに限られます。正式なサービスおよび保証の範囲は、契約で指定されます。

Thank you for your support to JPT Electronics.